

廃刊のお知らせ

いつも関電新聞をご愛読いただき誠にありがとうございます。この度、関電新聞は、本号をもって廃刊する運びとなりました。長きにわたりご愛読、作成にご協力いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。

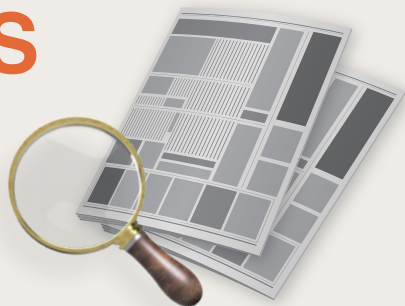
関電新聞は、1959年2月、事業規模の拡大により従業員間のコミュニケーションが希薄化することを危惧し、連携強化を目的に創刊されました。第1号では、初代社長である太田垣社長からの「創刊のことば」として、「本紙が職員やそのご家族の生活にとけこんで、一種のこころの支えとなることを期待している」とその想いが綴られていました。

本号では、これまでの新聞を振り返りながら、様々な困難に挑み、乗り越えてきた「当社の姿」を紹介します。

ARCHIVED NEWS

関電新聞が伝えた当社の軌跡

1959年～2025年



1959年 「関電新聞」第1号発行

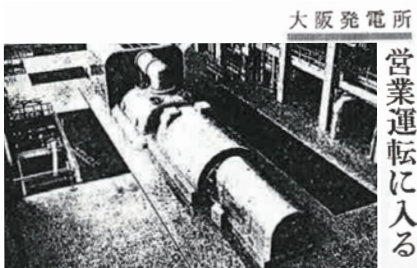


太田垣社長(当時)からの「創刊のことば」では「事業規模が日に日に大きくなるにつれて意思の交流が困難になっていくが、連携を高め、会社を愛する気持ちの昂揚を図ること等を目的に本紙を発行する」と綴られている。

関電新聞 No.1

1959年2月1日発行

1959年 「火主水従」時代へ



大阪市住吉区に建設が進められていた大阪火力発電所が1959年4月18日に営業運転に入った。長年の間主役であった水力発電の時代から火力発電の時代へ変わりつつあった。

関電新聞 No.7

1959年5月1日発行

1964年 堺港発電所運転開始



最終出力は200万kW以上と世界最大級(当時)。建設が進められる堺・泉北臨海工業地帯中心に電力が供給された。

関電新聞 No.141

1964年12月15日発行

1964年 「関電サービス」確立



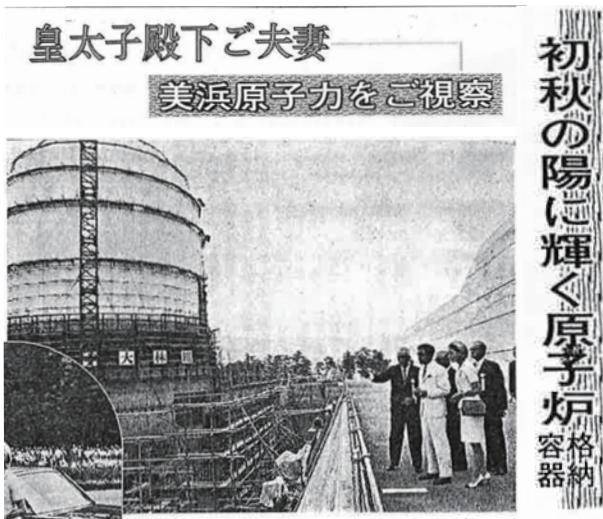
1964年1月に社連を制定。創業以来の経営理念を凝縮したものとして「ほ・ま・ち」が示された。

- ほ 豊富・良質・低廉な電気で需要家に奉仕する
- ま 真心のこもったサービスに全力を尽くす
- ち 地域社会の発展、繁栄に貢献する

関電新聞 No.120

1964年2月1日発行

1970年 美浜発電所1号機「大阪万博に原子の灯を」



(1968年9月15日発行)

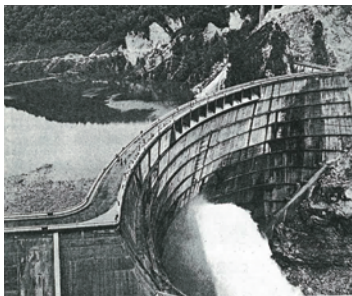
1970年8月8日、当社初の原子力発電所である美浜発電所1号機の約1万kWの電気が、万博会場へ送電された。それに先立ち1968年には皇太子ご夫妻が、発電所や美浜原子力PRセンターをご視察された。関電新聞では「初秋の陽に輝く原子炉」の見出しで紹介。

関電新聞 No.278

1970年8月15日発行

1963年 黒部川第四発電所(黒四)竣工

「黒四、晴れの竣工式」



人跡未踏・厳冬の地で難航を極めた黒四建設工事は、1956年7月着工以来、7年の歳月と総工事費513億円の巨費を投じ、延べ1000万人を動員して1963年6月に完成した。

当時の関電新聞では、建設の進捗状況を都度詳細に報じていた。

皇太子ご夫妻 黒部の秋ご探勝



(1961年11月1日発行)

皇太子ご夫妻が訪れた時は、発電所建設時の苦心や発電所で働く作業員の冬季間の苦勞ぶりに驚かれた。

黒部川電力所前広場、宇奈月駅構内には一般奉迎者数千人が集まった。

「黒部の太陽」撮影開始



(1967年8月1日発行)

また、「黒部の太陽」の撮影にあたって開かれた記者発表では、石原裕次郎、三船敏郎が作品への情熱を語り、撮影は関電ビル(当時)1階から始まった。

黒四特集号

1963年6月15日発行

1991年 美浜発電所2号機 蒸気発生器事故



1991年2月に発生した美浜発電所2号機での蒸気発生器の事故について、事故の概要、当社の対応等について臨時号で詳しく伝えた。

事故による環境への影響はなかったものの、蒸気発生器の細管が円周方向に破断し、非常用炉心冷却装置が作動する等重大な事態に至った。

臨時号

1991年2月発行

1995年 阪神・淡路大震災 直撃



1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生。その後、全社一丸となって、昼夜問わず復旧作業を進め、7日間で全ての応急送電を完了した。被害状況、被災地の復旧作業の様子を全社に伝え、震災から15年、20年、25年、30年の節目でも受け継がれる思いや教訓を紹介した。

関電新聞 No.747

1995年2月1日発行

2004年 美浜発電所3号機 2次系配管事故



2004年8月9日、運転中の美浜発電所3号機で2次系配管が破損する事故が発生。会長・社長からのメッセージ、事故の内容、被災状況や当社の対応等が2カ月にわたり臨時号で伝えられた。

その後も、毎年8月9日の「安全の誓い」の日には、事故の概要や、安全への取り組み状況等を伝え続けてきた。

臨時号

2004年8月、9月発行

